



# 京都市学校歴史 博物館だより

VOL.  
16

平成19年5月発行



正門、石堀は、国登録文化財

## 「“まなびや”に咲く百花」展

～京都市立学校所蔵作品から～



梅花模様花瓶 二代伊東陶山 白川小学校蔵 (元 栗田小学校蔵)



色絵菊花文碗 四代浅見五郎助  
東山小学校蔵 (元 修道小学校蔵)



日本の心 佐野光穂 嵯峨小学校蔵

四季折々に花が咲く日本では花は身近な存在です。

学校においても花が親しまれてきたことは、校章のデザインに桜からとられたものが多いことにも表れています。このたびは京都市立学校所蔵の美術工芸品の中から、日本画・油彩画・陶芸・漆芸・染織とさまざまな分野の花をモチーフとした80点以上の作品を紹介します。

四季を彩るいろいろな花の姿を鑑賞していただくとともに、多くの人々が歌に詠み絵画に描いてきた国花・桜や、学問の神様・天満神と結びつく梅、一つの画面にいくつもの季節の花々が盛り込まれ近代から継承してきた伝統を感じさせる花卉図や花籠図などから、日本の文化をより深く味わっていただきたいと思えます。



つつじ図 太田喜二郎 元 小川小学校蔵



籠に花卉図 玉舎春輝 元 梅屋小学校蔵



開催期間

平成19年4月20日(金)～7月16日(月・祝)

\* 水曜日は休館

\* 午前9時～午後5時

(入館は4時30分まで)





講堂に据え付けてあった  
「楽天」の瓦

## 旧成徳小学校の講堂・玄関 (京都市最古の擬洋風学校建築物)

### 京都市学校歴史博物館に移築・完成



玄関に据え付けてあった  
「成徳」の瓦

昨年10月、旧成徳小学校の講堂が、明治42（1909）年に城陽市寺田の高岳寺に移築され、現在まで本堂として活用されていることがわかりました。

この本堂は、明治初期（明治8（1875）年）に建築された現存する京都市最古の学校建築物の1つであることが確認され、特に玄関車寄せ（寺院の向拝）には数少ない「擬洋風」の意匠が残されていました。高岳寺では、近年寺院の老朽化、耐震性能上の理由から本堂を改築、取り壊されることになり、このような建築物は、京都の教育史、日本の建築史の観点からも貴重な建築物であることから、「京都市学校歴史博物館玄関として移築、保存、公開」の旨を希望したところ、快諾をいただき、移築工事を行いました。



明治中期の旧成徳小学校  
(左方向に玄関車寄せが見える)



学校歴史博物館 玄関



移築前の本堂（顕照山高岳寺）



カーブに特徴のあるアーチ風の屋根



先の細くなったローマ風の円柱

第一展示室に開設しました。



#### 旧成徳小学校

明治2年9月に「下京第9番組小学校」として創設。開校以来児童数が年々増加し校舎が狭くなったことなどから、室町通綾小路南入白楽天町に玄関、講堂などが新築され、明治9年1月遷校式を行いました。

#### 擬洋風建築

日本の伝統的な和風建築技法を用い、外見を欧米の建築物をまねて作られたもの。開化様式ともいい、他県に比べ京都は例が少ない。

明治初期に建築されたもので、その後他に移築され現存する京都市の「明治時代の学校建築」なども紹介しています。

## 京都・馬町空襲直後の被爆写真を初めて公開

企画展 昭和の思い出と子どもたちより

平成18年12月8日（金）～平成19年4月16日（月）

昭和16（1941）年より始まった太平洋戦争は、次第に日本に不利な状況となり、昭和19（1944）年11月よりアメリカ軍のB29爆撃機の日本本土侵入が始まりました。

東京、名古屋への空襲が激しくなり出した矢先の昭和20（1945）年1月16日午後11時26分、それまで空襲のなかった京都地方に突然B29が飛来し、空襲警報が出されないうまま住宅地である東山区修道学区に爆弾が落とされました。くしくも、この日、空襲直前に軽度の地震があり、眠りから覚めた多くの家が電灯をつけていました。修道国民学校の児童9名を含む41名が犠牲、316戸が被害を受けました。

この時の様子を記録した写真14枚を、撮影者であり修道学区で写真館を営む故長谷川哲也氏から譲り受けた故大野孝司氏が修道校百周年記念に際して説明文を添えて学校に寄贈され、現在、統合校となった東山小学校に保存されています。当時は、報道規制が敷かれており、事実が隠され、親類への電報になぜ死亡したかを書くことが許されなかったという回想記録も残っている中で、これらの写真は、大変貴重であり、またあまり知られていない京都空襲の様子を現代の私達に如実に伝えていきます。

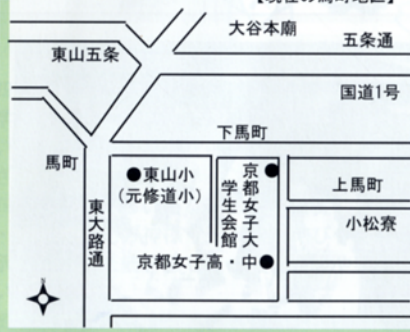


下馬町より北向撮影  
人物は当時視察に来た他学区他府県の警防団員



京都女子専門学校寄宿舎 現在京都女子大学第三小松寮  
現在 藤ヶランド 東側 テニスコート付近より 北向撮影

【現在の馬町地区】



馬町通りの当時、コンクリート道路に落ちた  
直撃爆弾破裂の跡



現在の馬町 三嶋神社南入る 京都幼稚園



上馬町西部北西付近より南東向撮影  
ビロを持った人たちは当時の修道警防団員

## 旧 成徳小学校玄関移築記念講演会より

## 『近代京都の木造校舎とその伝統』

平成19年3月25日(日)旧成徳小学校玄関移築記念として、京都の学校建築の研究において第1人者である京都府立人間環境学部 環境デザイン学科教授・工学博士 大場 修氏による講演会を開催いたしました。

旧番組小学校の校舎は、大正12(1923)年の本能小学校を皮切りに、昭和初期にかけて鉄筋校舎に建て変わり今日に至っていますが、この度の講演は、それ以前の明治・大正期の木造校舎に関する京都の特徴をお話いただきました。また、後半では、後に京都市に編入した地域の小学校の校舎の特徴についても言及され、大場先生の緻密な調査結果に基づいた多くの写真や図面を見ながらの、1時間半を越える中身の濃い講演会となりました。

明治2(1869)年、64校の番組小学校が開校した当時、6割の小学校が新築であったにもかかわらず、就学率の向上による児童数の増加と教育設備の充実をめざして、街中で校地の拡張、校舎の増設といった難題をいかに地元住民たちが熱意をもって対処していったかを各小学校の事例をもとに話されました。建替わった校舎については、明治10年頃の開化様式(擬洋風)の講堂、明治後期の御殿造の格式ある校舎の特徴など、写真を見せながらの興味深いお話でした。また、建替え資金の一部として売却され、よそに移築されて、現在は寺院に多く残る小学校校舎の事例をあげ、調べれば調べるほど面白い京都の町の奥深さを強調されて、近代京都の木造校舎は、増改築と移築の歴史でもあるということを実証されました。小学校は行政の末端組織としての地域住民の自治施設であったため、各地域のシンボルでもあり、校舎を建て替えても学校の玄関はそのまま使用した例をいくつか話され、小学校の玄関の重要性を強調されました。それは正に、旧成徳小学校の玄関車寄せが、博物館の玄関として移築されたことが、京都の学校建築の伝統による意義深いことであるとお話いただきました。時間があれば、まだまだお聞きしたい内容の講演会となりました。



## 昔の学校あれこれ

## 第九回

### 「昔の教科 算術」

現在、小学校の教科「算数」は、昭和16(1941)年から使われた名称です。それまでは「算術」という教科でした。

江戸時代は、日本独自の「和算」という数学や、珠算(そろばん)を使った計算方法が一般的で町人の生活には欠かせないものでした。寺子屋でも「読み、書き、そろばん」として重要な位置を占めていました。明治維新後、欧米から洋算(筆算)が取り入れられ、京都では、明治4(1872)年に小学課業表を定め、下級から上級に進むに従って筆算に重点を置くよう計画されていました。大正末期より「生活算術」の理念から教具の工夫がなされ、やがて算術セットを1年生から持つようになり、実験・実測の出来る学校備え付けの教具も整備されました。

写真右「算術教室での実験」  
昭和10(1935)年頃 元日影小学校



## 京都市学校歴史博物館

京都市下京区御幸町弘光寺下ル橋町437 (元開智小学校)  
TEL. 075-344-1305 FAX. 075-344-1327

- 入館料/大人200円 子ども(高校生以下)100円  
(20名以上の団体/大人160円 子ども80円)  
※京都市内の小・中学生は土・日は無料
- 開館時間/9:00~17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日/水曜日(休日の場合は翌日)  
12月28日~1月4日



時を越え美しく  
ひと輝く 歴史都市・京都



- 阪急電車/「河原町」駅下車 南西へ歩5分
- 地下鉄/烏丸線「四条」駅下車 南口改札東へ歩10分
- 市バス/「四條河原町」停留車 河原町通より西へ二丁目(御幸町通)より南へ歩5分